

## 工業部会長報告

第2回工業部会は、9月11日にプリンターヘッド部品の製造および組立、超精密部品・金型治具工具製造加工など独自の技術を活用しながら事業展開している湯沢市の「秋田エプソン㈱」への視察を行い、部会員16名が参加しました。

当日は、代表取締役会長の井上直志氏から企業概要を説明いただき、工場内を視察いたしました。

企業概要および視察内容は下記のとおりです。

### 【企業概要】

- ・「秋田エプソン㈱」の前身は「秋田オリエント精密㈱」で2009年に「セイコーエプソン㈱」の直接子会社となり社名を変更した。セイコーエプソングループの「省・小・精」の独創的な商品製造に貢献すべく、国内製造の重点拠点として成長してきた。
- ・2017年度売上は188億円。2018年9月現在の従業員数は970名（内正規714名）。男女比率は7：3。今年度は地元高校生を22名正規社員で採用した。来年も大卒高卒合わせて25名～30名の採用を予定している。
- ・プリンティング事業、ウェアラブル事業、生産技術事業の3事業部に分かれ、各々が大きな柱となり固有技術、管理技術の強化を図っている。
- ・高付加価値生産を目指し、作業分析ソフトを活用し作業の無駄の抽出と改善に取り組んでいる。
- ・複雑な部品を製造しているため、全てオートメーション化することは出来ないが、現在、工場内には400台のロボットを導入している。
- ・2014年5月には、秋田県産業技術センター、秋田大学医学部、岩手医科大学と電界攪拌染色装置「ヒスト・テック®R-IHC®」を開発し医療機器も製造している。
- ・2016年11月には、新工場を増築し、将来的には、インクジェットプリンターヘッドの生産能力を現在の3倍に向上させる予定である。
- ・2017年には、乾式オフィス製紙機「ペーパーラボ」を製造。「ペーパーラボ」は、使用済みのコピー用紙から水を使用せずに再生紙を作る世界初の技術である。
- ・「ペーパーラボ」は、機密情報を外部に出さずに処理できるため、2017年9月30日には湯沢市、10月13日には秋田県庁に導入されている。現在、湯沢市役所職員の名刺はこの再生紙を活用し作成している。
- ・ウェアラブル事業では、2003年に完全撤退していたウォッチ部門で、2014年6月からウォッチムーブメントの組立を再開し、現在は月300万個を生産し、特に「セイコールキア」（女性用時計）製品はメイドイン秋田として品質を極めている。
- ・女性活躍推進のため「女性委員会」を設立。メンバーは各事業部から選出された11名で構成。製造現場における女性目線での気づきの拾い上げと改善を目的に活動している。主な活動としては、女子社員の社内割合アップを目指し女子学生を対象とした工場見学会の開催や、企業内託児所の設置について意見交換会などを実施している。

### 【工場内視察】

- ・プリンティング事業、ウェアラブル事業、生産技術事業3事業部の工場内を見学した。各担当から、事業概要、製造過程について説明を受けた。

以上が工業部会からの報告です。



【秋田エプソン㈱正面玄関にて】